

文化薫道

ぶんか
くんどう

◆其の百二十九

同じカタチの銅鏃^{どうぞく}

写真の銅鏃は、市内阿志岐の古墳で発見されたもので、どれもよく似た形をしていて、長さは約五センチ、中央に



▲阿志岐の古墳で発見された銅製の鏃(やじり)(銅鏃)

一本の筋が浮かぶように面取りされ、外形が緩やかな曲線を描く姿をしています。銅鏃にはさまざまな形がありますが、同じ古墳で見つかった銅鏃のほとんどが、この形でした。

銅鏃はつくった後に磨かれ、美しい輪郭に整えられていました。使うための道具でありながら、形や仕上がりにも心を配っていたことがうかがえます。なぜ人々は、同じ形を選んだのでしょうか。

この形の銅鏃は、政治経済の中心であった畿内(現在の奈良県周辺)をはじめ、各地の首長クラスの古墳でも見つかっています。阿志岐の古墳からも、共通する形の銅鏃が一つの古墳にまとまって出土しているのです。

なぜ遠く離れた地域で、数ある形の中で同じ形が選ばれたのか、その理由は分かっていません。しかし、同じ形を共有していたことは、畿内とのつながりを物語っているのかもしれません。

この銅鏃は、歴史博物館で展示されています。古墳時代の人々が大切にしていた「形」を、ぜひじっくり眺めてみてください。

問文化財課